

## 【小学部の教育】

### 1 教育目標

将来に向けて、生き生きと自分の力を発揮できる児童を育てる。

- (1) 人と触れ合い、関わり合う力を育てる。（人間関係をつくる力）
- (2) 感情を豊かに表し、思いを伝え合う力を育てる。（コミュニケーション力）
- (3) 生活に必要な基礎的なスキルを習得し、学校や地域の中で使用する力を育てる。（社会環境への適応力）
- (4) 身の回りのことに自分から取り組む意欲を育てる。（はたらく力）
- (5) 自分の好きな活動を見つけ、意欲的に取り組む力を育てる。（選択・決定する力）

### 2 教育方針

- (1) 児童一人一人の発達段階や特性等を的確に把握し、個に応じた教育内容の検討と適切な指導方法の確立に努める。
- (2) 個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づき、ICT 等を活用した学習を取り入れ、指導方法や指導形態について検討しながら、児童一人一人に即した授業の構築に努める。
- (3) 小学部段階で必要な指導内容を整理・改善するとともに、系統性を持たせた指導に努める。
- (4) 生活年齢や発達段階、特性等を考慮しながら、地域の教育資源を積極的に活用した指導に努める。
- (5) 家庭や福祉施設、関係機関との連携を深め、指導の充実に努める。

### 3 特色

今年度の小学部は、児童数77名でスタートしました。

小学部では、基本的生活習慣や思いを伝え合う力を身に付け、自分でできる喜びを感じられるような学習活動に取り組むことを重点にし、学習は主に学年ごとのまとまりで行っています。

全学年が行っている日常生活の指導では、食事や排せつ、挨拶、清掃活動などについて実際の場面で取り組んでいます。1～4学年が行っている遊びの指導では、活発に体を動かして周囲の人達と関わり、意欲的に活動することができるように遊具遊びや伝承遊び、集団遊びなどを設定しています。校庭や学校の近くにある公園で固定遊具を利用したり、藻岩山に行って枝葉遊びに取り組んだりすることもあります。全学年が行っている生活単元学習では、学校行事や季節行事に関わる学習、身近な自然に関わる学習、社会の仕組みに関わる学習を行っています。身近な自然に関わる学習では、地域資源を活用し藻岩山を散策して植物の観察をすることで季節の移り変わりを感じたり、じゃが芋などを栽培したりして植物の成長に触れたりなどしています。社会の仕組みに関わる学習では、金銭の扱いを学ぶための模擬学習を行ってから実際に近郊の商店を利用したり、災害時の避難などを学んだ後に避難場所である伏見小学校まで移動したりなどしています。

また、1学期に小学部運動会を行い、体育で学習したことを保護者の方に見ていただく機会を持っています。2、3学期には学部集会を行い、他学年の児童と関わる機会を持つようにしています。

小学部では、遊びの指導や生活単元学習で近隣の公園や店舗などの施設を活用しながら、校内で身に付けた力を発揮したり、興味関心を広げたり、校外での過ごし方を学んだりできるように学習を計画していきます。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。